

厚生文教委員会報告書

令和6年9月20日

備前市議会議長 西 上 徳 一 殿

委員長 中 西 裕 康

令和6年9月20日に委員会を開催し、次のとおり議決したので議事録を添えて報告する。

記

案 件	審査結果	少数意見
議案第111号 財産の取得について	原案可決	なし

<所管事務調査>

- 香登認定こども園について
- 部活動地域移行について
- PTA について
- 備前中学校におけるプールの授業について
- IB 教育の進捗状況について
- 中学校のグラウンド整備について
- 新型コロナウイルス、インフルエンザ感染状況について
- 伊里共同調理場の食洗器の故障について

<報告事項>

- エアコンの設置状況について
- マイクロステップスタディの検証について
- タブレット及びパソコンの使用状況等について
- 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について
- ALT の採用と配置状況について

《 委員会記録目次 》

招集日時・出席委員等	1
開会	2
議案第111号の審査	2
報告事項	14
所管事務調査	26
閉会	37

厚生文教委員会記録

招 集 日 時	令和6年9月20日（金）		午前9時30分	
開議・閉議	午前9時30分	開会	～	午後1時52分
場所・形態	委員会室	会期中（第4回定例会）の開催		
出 席 委 員	委員長	中西裕康	副委員長	青山孝樹
	委員	土器 豊		守井秀龍
		立川 茂		藪内 靖
		奥道光人		草加忠弘
欠 席 委 員		なし		
遅 参 委 員		なし		
早 退 委 員		なし		
列 席 者 等	議長	西上徳一		
傍 聴 者	議員	なし		
	報道関係	なし		
	一般傍聴	なし		
説 明 員	総合教育部長 兼幼小中高一体校準備室長	畑下昌代	教育総務課長	春森弘晃
	国際教育課長	守屋孝治	小中一貫教育課長	谷口健一
	幼児教育課長	文田栄美		
審 査 記 録	次のとおり			

午前9時30分 開会

○中西委員長 皆さん、おはようございます。

ただいまの出席は8名でございます。定足数に達しておりますので、これより厚生文教委員会を開会いたします。

本日は、教育委員会関係の議案審査、所管事務調査を行います。

それでは、議事に入ります。

***** 議案第111号の審査 *****

まず、議案第111号財産の取得についての審査を行います。

本日は、資料が出ておりますので、まず教育委員会より資料の御説明をお願いいたします。

○春森教育総務課長 議案第111号として、財産の取得で、電子黒板及び周辺機器につきまして議会の議決をいただくことをお願いしているところでございます。

契約相手方につきましては、お配りしました追加議案にありますとおり、ラインズオカヤマさんになつとります。

契約の方法は、公募型プロポーザルという形でしとります。

取得金額は1億7,744万340円となつとります。

プロポーザルにつきましては、そのプロポーザル以前に、まず展示会という形で、学校の先生とかもどういった電子黒板があるかというのをこちらのほうでさせていただきました。厚生文教委員会でも、こういう形で展示会していますというのをお伝えしていたんですが、議員さんは大体3名さんぐらいは、その会場を訪ねられているのを確認しておりますが、先生方もたくさん来られていろいろな御意見等いただいた上で仕様書を作成し、プロポーザルを実施しております。

プロポーザルは、そのときの展示会に参加されたのが電子黒板5社、それからプロジェクター型で1台提案があったんですが、最終段階としては、電子黒板を提案された5社の方が最終プロポーザルのほうには、そのまま提案された状態になつとります。

お配りしましたこのカタログ、パンフレットなんですが、皆さんが御存じのよくあるディスプレイというのは、普通のディスプレイが多かったんですが、最近の電子黒板というのは、中にOSが入っているので、その中でアプリが稼働したりとかして、パソコンと同じような環境で使えるような電子黒板に変わってきております。提案された事業者においても、全てにおいてこういったアプリが使えるような電子黒板のほう提案されており、OSについては1つが4社ぐらいがアンドロイドとグーグルクロームの両方のOSが立ち上がるというのが4社、それから1社がウィンドウズで提案されてきたという形になつとります。

結果として、今回採用になったのは、さつき株式会社さんが作られているものになります。こちらは、OSがアンドロイドとグーグルクロームが動く形になっておりまして、デュアルのOSという形になつとります。

現在の学校環境では、グーグルクロームを生徒とか先生方も使われておりますので、これを

することによって先生方が、自分の持っているグーグルクロームの環境に保存したデータを自分のタブレットを持っていかなくても電子黒板化で自分がログインすれば同じデータを使ってその場でできるとか、そういった形で先生の利便性も考えられたような電子黒板になつとります。

カタログのほうは、これは実はちょっと前の型になつとります、最新型が出たんですが、まだこの詳細などといった機能があるよというのが書かれてないので、こちらは古いほうでどういうアプリが入って、どういう機能があるのかを皆さんに見ていただけたらと思います。最新型は、本当に8月ぐらいに出たものをこの予算は提案してこられたので、こちらの特徴としてはこういった機能のプラスとしてダイレクトボンディング対応ディスプレイという形で、展示会に来られた方のときからバージョンアップしたものとしては、左右から見たときの、よく左右から見ると、ここが別の光で白色になって見えなくなるというのを、もうほとんど極力なくするような機能で、生徒が左右にいたとしても、それなりに見えるというディスプレイで提案してこられたものになつとります。そのため、入った後にまたどっかのタイミングで見えていただけたらと思うんですが、かなり左右のこう視界が広い形で授業環境にはよいのかなと思つとります。一応ディスプレイの電子黒板としての内容はになります。

先日、質疑があったんですが、ノートパソコンとか、iPadとか、何で要るのかという御質問についてお答えさせていただきます。

こども園と小・中・高のノートパソコンは、管理ツールと、管理端末となつとります。管理端末の特徴としては、情報が全ての端末にこういった、今日は何時何分から体育館で皆さん集まってくださいとか、通知ができたりするような設定ができたり、それから利用状況、端末、黒板自身の利用状況、年間どれぐらい使っているとか、どの学級がよく使っているとか、そういったものが管理できるツールとして入つとります。そういった形に入れることによって、校長先生や教頭先生が自分の学校内のデジタル環境をどのように利用しているかが確認できるという設定になつとります。

また、iPadはこども園に入れるつもりでおります。こちらは、園児がiPadでいろいろお絵描きしたものが画面に映し出されるとか、そういったもので子供がデジタル環境に関わっていく、慣れていくというために、園児用の端末として各園に2台ずつ配置したいという形になつとります。

また、ブルーレイ、デジタルビデオ、テレビチューナーにつきましては、それぞれの環境に合わせて、その電子黒板を有効に活用できるように購入する形になります。ワイヤレスキーボードにつきましては、プロポーザル後、協議して、タブレットで、電子黒板でIDをするのが大変画面が大きいので難しい部分になりますので、先生とか、生徒とかがキーボードで入力できるものも1つあったほうが良いなということで、ワイヤレスキーボードを追加した形になつとります。

内容としては、こういった形で周辺機器というものを入れておりますので、財産の取得で提案してありますとおり、電子黒板及び周辺機器というのは、この電子黒板に関係して、児童・生

徒、先生も含めて、いろいろこういったものを活用できるという形で設定したのになります。

以前、厚生文教委員会でもありました研修なんですが、提案の内容よりも倍の形でかなりの時間を取れるように設定した形になっとなります。時間を覚えてないんですが、当初の見込みよりも先生側からも研修時間、自分たちでこういったものをしてほしいというのを組み込んで、基本のものに対してできないかという御意見もございましたので、そういった時間も取れるように調整し、できるだけ有効に活用できるような環境を準備している形で提案させていただいた形になります。

○立川委員 今回の仕様書を見てみますと、これの75型でいいんですよね。

75ということになると、かなり大きなものになると思うんですけど、対象をどのぐらいに見ておられるんですかね、見る人数。

○春森教育総務課長 支援教室等でも使いますので、それぞれ人数は少人数のところから、大きいところでは35人とか40人近い人数は、今あると思っとなります。また、体育館等にも設置する予定ですので、体育館になれば、それに対してたくさんの人数が見るという形になってくるとは思いますが、想定としては75インチでかなり大きいものになった形になります。

設置場所も、一応全部の普通教室と特別支援教室に現状に配置する、全て配置する形になっとなります。特別支援教室に割当てとしては、4台を想定しておりますが、あとこども園に各1台という形になります。ただし、実際は10月以降になるんですが、今、総量が想定であり、来年の支援教室の数とか、来年の生徒の数で、各学校の教室数も様々変わってくる予定になっとなりますので、最終的な微調整は、実際この台数の中でしていく形になると思っとなりますので、本当に配置した後の台数というのは、恐らく1月か2月に、こちらの厚生文教委員会に最終的な配置場所というのはお伝えできたらと思っとなります。今回の財産の取得としては189台、当初がこれより10台ぐらい少ない形でしていたんですが、プロポーザルによってちょっと台数を増やすことができるのかなという話で、もともとの仕様書のほうをちょっと多めに設定した結果、この取得になっとなりますので、そういった部分について御理解いただけたらと思っとなります。

○立川委員 以前答弁でも体育館でも使うよと、さっきもお話がありましたけど、ちょっと不思議に思ったのは、例えば、今、クラスの人数も減っておりますし、5人でも75インチ見るのかな、体育館で粗い計算ですけど、2クラス来て50人ぐらいでも同じ大きさで見るというのかなということも思ったんで、その辺の数、どう考えておられるのかなと思っとなし、それでお尋ねしたんですけど。

○春森教育総務課長 当初の設定は、もともとのこの補助金が申請された段階は65インチでした。65インチと75インチについては、これが八十何インチになると、値段が格段に上がっていくんですが、65と75、そんなに金額にプロポーザルとかすると差がありません。そのため、小さいものにするというものであったりとかする選択肢もあったんですが、教室のほうは。もう一律、結局、今言われたように、いろいろな環境、学級の環境変わっていく中で、違う大き

さを入れるよりも、全てのところに同じインチ数のものを入れたほうが動かしやすいという考え方に基づいてやっております。体育館については、今後の状況によって、例えば、2台体制にすることも将来的にされていくこともあるとは思いますが、現状では取りあえず今1台という形で御理解いただけたらと思います。

○立川委員 その辺が不思議かなと思って、小さい教室にも75が入るよ、体育館にも75が入ると、それは何も違和感がなかったですかということでお尋ねをしました。

そうおっしゃるんならやってみられたらいいとは思いますが。

以前に遡るんですけど、去年のお話でしたよね、これ。補助金どうこうというお話があって、今回、この契約に至った経緯を、提案から時間もずれて、予算もずれ込んできていると思うんですが、その辺の経緯を御説明いただけますか。

○春森教育総務課長 恐らく予算の位置づけは、令和4年とか、令和5年度にも、いろいろと、電子黒板の話はあったと思います。去年の段階は、財源が企業版ふるさと納税を想定されたりしたんですが、そういった形のものを踏まえて、昨年度の担当部署で調整し、できるだけデジタル田園のといった補助金の補助率の高いものを導入で実施したいということを踏まえて、今回去年のものは全額執行しないまま新しい年度の、今回、追加補正で補助金がつきましたので計上した形になつていきます。

昨年度までに導入できなかった結果、学校現場に遅れていた部分もあるのは当然理解しとりますが、取りあえず、まず今回補助金がついて、こういった形で提案させていただいて、学校現場に導入して、学校現場も含めて、児童・生徒含めて、園児も踏まえて、デジタルに触れていただける環境ができればいいなと思っておりますので、御理解いただけたらと思います。

○立川委員 当初、今おっしゃったように、4年度ぐらいからのお話で、5年度には予算がついて、これは財源としておっしゃったように、ふるさと納税企業版充てますよと。ところが、集まった企業版は地方創生の名の下、いろんなところに行っちゃって、結局これに回らなかったと。DXの補助金探したらあったんで、決定したんで、ここへ持ってきたという解釈でいいわけですね。お金の流れでずれたと、そういう解釈でよろしいですか。

○春森教育総務課長 財源については、見込みの部分でそうなつていきますので、結果としては確実に入る財源を求めたという理解いただけたらと思います。

○立川委員 昨年度は見込みのない資金を当て込んで事業計画を立てていたと。今回、確実な資金が入るんでという解釈をしときます、何かおかしいような気がしますけど。

現場の意向はもっと早く早くという意向があったように聞いておりますので、その辺、またこの次はよく対応してやってください。

i P a dを入れて、こども園で、それとその上のノートパソコンも入れて、動作環境は、例えば、管理者で管理するで、分かるようにするとおっしゃってましたね。例えば、A教室で何回使ったよ、体育館で何回使ったよ、支援学級のところで何回使ったよということが一挙に把握でき

るシステムだと理解してよろしいんですか。

○春森教育総務課長 要するに、管理ツールを入れておりますので、そういったものができるのと、まさに庁内放送とか、庁内に対する掲示ができるような、デジタルサイネージみたいなイメージで使えるようなものをイメージした形で、こういうパソコンを入れた形になりますので、そういった部分は必要だと感じ、初めの当初の補助金の申請段階からも、これは見込んで補助金の申請をしておりますので、そういった形の提案も各社からいただいたところでございます。

○立川委員 その辺の動作環境の確認で、使用状況の確認もできるというエデュケーションのショーを見に行きますと、そういったデータを一括で学校管理、それから教育委員会が管理、例えば、A小学校はちょっとこの辺が弱いんじゃないのというアドバイスに使える反面、あんたところ使いよらへんな、B小学校というふうなところも簡単に数値としてできるようになっていると思うんですけど、その辺の取扱いはどう考えておられますか。

○春森教育総務課長 視覚化して利用状況が見えるというのが、文科省の全体的な学校の統一的な指導になっている部分がございます。おっしゃった部分と同じで、我々としても、ただそれができていないからどのように活用していくかという確認部分が出てきます。そのために、前回の厚生文教委員会でもお話がありましたように、研修時間を増やしたりして、いかに利活用していただく形になるので、おっしゃっている部分に対して、こちら也使っていただくような努力をしていくことも大事だと思いますので、そういった形で御理解いただけたらと思います。

○立川委員 そういう使い方をしていただくが一番いいんですけど、中にはやっぱりお尻たくく材料にしたり、学校によって温度差があるというのもお聞きをしておりますし、その辺のあめとむちじゃないですけど、しっかりその辺の使い方の規定なんかもされて、おっしゃったように、本当に、こう使うんですよ、こう使ったらいいもんが出てきますよというプラスの方向に行けるような仕組みを、谷口課長とも相談されて、現場ともしっかりそういった仕組みをつくっていただけたらと思いますが、いかがですか。

○春森教育総務課長 おっしゃっているとおりだと思いますので、そういった形で進めてまいりたいと思います。

○立川委員 それと、この仕様書の中を見てお尋ねしようと思うんですけど、どういった研修を考えておられるんでしょうか。

それと、当初よりも今お聞きすると、倍近くの研修を企画されているということだったんですけど、現場の先生大丈夫なんかなという気がしてしょうがないんですけど。もし分かりましたら、頻度とどの程度のことをされるのか。操作環境だけなのか。今おっしゃったように、これメーカーがエデュケーション行っても分かるんですけど、いろんな説明されますわね。これをこうしたら使えますよ、これも使えますよ、いろんな業者さん、いろんなこと言われるんですけど、そういったところのキャップといいますか、この辺でここはやめとこうねとか、そういったことは考えておられるのか、2点、お尋ねをします。

○春森教育総務課長 まず、基本的な操作研修が当然ございます。それとは別に、管理コンソールとか、その管理のノートパソコンを入れる環境も踏まえて、管理者側の研修等も実施いたします。そういったものもそれなりの時間を設定する形で進めたいと思います。

それとは別で、追加したものとして、学校現場からも話がありましたが、それぞれの学校の状況であったり、こういう活用ができないかとかといったものも踏まえた利活用ができるような研修もそれぞれ組んでいけるように、学校側に委ねたような研修ができるような体制にもなつていきますので、そういった部分について、その部分を総合的にいろいろな活用を進めてまいりたいと思っております。ただし、後はあくまでも、これは今年度事業ですけど、来年度以降も当然別の形で、先生変わるわけですし、そういった部分というのは順次研修を続けていきますので、初回の分としてはそれなりの時間を取っているけど、それで終わりというわけではないと私たちも思っています。予算上に上がるかどうかは別として、業者さん側の協力の下、今、導入された業者さんが研修することもあるかもしれませんし、そういった部分は当然進めてまいります。

○立川委員 人数、回数が出てこなかったんですけど、現場でされることが多いと思いますが、その際の講師の派遣なんかもこれは含まれておるんですか、SEさんの派遣とか。

○春森教育総務課長 派遣で来られる場合もありますし、当然電子黒板というのはオンラインで話もできる状況にございますので、オンラインで研修することも当然あるので、そういった部分等も踏まえての形になると思います。いろいろパターン、やり方とかはあると思いますので、逆に電子黒板でオンラインで使えるからこそその活用方法も研修方法としてはあるのかなと思っております。

○立川委員 現場の先生方もオンラインに温度差がかなりあるやにお聞きをしておりますし、思惑どおりオンラインで皆できたらええんですけど、やっぱりそれ相当の方は、手取り足取りのほうがいいような気がしますんで、しっかりお願いしていただきたいと思います。

今お話聞いたように、その他のときにメンテナンスはどうされるんですか。

○春森教育総務課長 当然最初の導入してからの期間保証というのはございますが、それはある程度の年数超えた場合は、また別の保証になったり、修繕費を確保したりとか、別途保守契約に入るのかとかは別になります。そういったものも踏まえて、補助金制度を使った場合、かなり、今、国も、後年度の何年度まで補助金で見てくれるよというのが、昔よりかなり厳しくなっている現状がございますので、この分の申請については、国の基準というのが導入年度プラス2年間のある程度保証であったり、そういったものを見ていただける形になりますので、そういった部分の概要としては、そこまでの部分はある程度対応できるのかなと思っております。ただ、想定外の修繕が発生した場合は、経費がかかったりすることもございますので、一概にはこの分で全てこの後2年間が持つわけではございませんし、ある一定の部分の保証までは、この今契約の中でできると思っております。それ以降というのは、経常的な経費が発生する可能性はございます。ただし、一般的な契約経費、使用料とか関係する後年度負担が発生するようなライセンス容量等も

一応5年間とかを踏まえた上でプロポーザルの決定は評価しているので、そういったものもトータルとして評価したものだと思っただけだと思います。

○立川委員 一応瑕疵担保は2年間あるよとというところのお話ですよね。タブレットが導入されたとき1年ぐらいたったら現場行ってみると、これはぼんと籠の中へ放っとったり、前の電子黒板もそうでしたが、ふるさと納税やというて買って、早くに壊れて、そこら辺へほりかぶっとったり、そういったケースが多々見られましたので、その辺が非常に気になるところでして、体育館の中で、例えば、これはこんなことないと思いますけど、ボールでも当たって液晶画面がこうなったよ、すぐ直してくれますかと、いやちょっとねとかという形にもなるでしょうし、これはあるやつを回したらいいと思うんですけど。そういったところで、その取扱い非常に何か管理規定といったらおかしいですけど、使用方法とか、一括管理は教育委員会でされるんでしょうから、学校任せにするのではなくて、大変残念な思いをした経験がありますので、その辺ロスのないように何か考えておられたら教えてください。

○春森教育総務課長 おっしゃっている部分のタブレットの話の分になると、来年度以降、多分タブレットが学校導入されると、予定で多分進むと思うんですが、今のタブレット交換ですね。基本的に、現状のタブレットというのは、全国的なとか、都道府県単位で導入したりする部分の国の方向性としては、おっしゃったとおり、もともとのその分の予備機というイメージですね、そういったものを15%ぐらい見込んで買うような計画に多分なっていると思います。器械である以上、そこに壊れる部分の部分があるのは当然でございますし、初期不良とかあったり、場合によっては過去も私も知っている範囲で、ロットと言って、作る製造の列の中で、ロットでその番号が全部緊急修繕が必要になったときも、私も知っておりますので、そういったものも踏まえて対応は必要だと思っております。

現状は、まず普通教室と特別支援教室の部分以外の特別教室のものは、取りあえず最悪の場合には予備機として普通教室に移動できたらなと思ったりしておりますし、そういったものも踏まえていろいろな環境というんは今後も整備してまいりたいと思っております。おっしゃっている部分としては、当然理解した形で思っておりますので、そのためにも普通教室、特別支援教室以外に入っているのだと思っただけだと思います。

○立川委員 やっぱあると当てにしちゃうんで、今、要するにリコールがあったりとか、2年間の瑕疵担保がついていますから、その辺は大丈夫だと思いますけど、その間の予備機使うシステムや仕組みとか、しっかり、せつかくこんだけのもん導入するわけですから、現場ともしっかり調整いただいて、谷口課長ともしっかり相談いただいたらなと思います。

○奥道委員 テレビチューナーは何で85なんかなと。

○春森教育総務課長 普通教室への設置となつとります。

○奥道委員 体育館はつけないんですか。

○春森教育総務課長 現状そちらは入れておりません。

○奥道委員 災害時に避難所となる体育館で、災害情報等の一斉配信をする、これは要するにテレビを見せようというんじゃないということですね。

○春森教育総務課長 一応別づけのチューナーになっとなりますので、移動できるという想定の下で、別に、電子黒板とは別のチューナーで形でセットする形で、移動できる想定でいろいろ環境としては学校側で融通利くような形で想定しております。

○守井委員 無理に電子黒板という、特別な商品という形なんですけど、契約してから発注というような格好になるのかなと思うんですけども、この数量であって、その製品というものが直ちに年度内にきちっと入るような予定があるのか、その納品の時期はいつぐらいの予定か、それを教えていただけたらと思うんです。物によっては、何か納品ができなくなったというようなことも時々聞くことがあるんですけど、その点はいかがでしょうか。

○春森教育総務課長 もうこの議会に追加議案で出した部分が御理解いただければ、これが12月に出すと、確かにおっしゃっているとおりかなり厳しいタイトなものになるんで、今回御無理を言ってここで上げさせていただいた形になります。

ただ、標準的に思っているのは、12月末から1月ぐらいから少しずつ器械の導入ができる形を想定しております。ただ、さっき言われたように、工場のトラブルとか、そういうのがあったりすると、あと特に割とこの会社さんは自治体へたくさん入られとって、いろんな自治体で何千台とか、我々より規模の大きい自治体で入ったりするようなことをされているので、いろいろな台数が積み重なっていく中での流れになりますので、そんな中でのスケジュール感になりますが、イメージとしては12月か1月には器械が納品され、特に電子黒板、その他の周辺機器は別として、電子黒板が納品されて、2月、3月ぐらいには先生方への研修を実施したいというのがイメージになっとなりますし、業者も一般的にはそう思われていると思っとなります。

○守井委員 これに関わる維持費、いわゆる電気代だけかもしれないんですけども、そういうものはどのくらいを見積もっておるのでしょうか。学校によって、台数によって違うんかもしれませんが。

○春森教育総務課長 電気代は計算しておりませんが、当然おっしゃっているとおり電気代が発生するとは思いますが。

先ほど、経常経費で計算したのは、ライセンス契約とかを更新しなければならないものについての経常経費というのは見込んでおりまして、50万円未満だったと想定しております。ただし、ライセンス料というのは、後年度上がっていったりする可能性もありますので、今、現状の見込みとしては大体50万円未満ぐらいになるかなという見込みで、こちらの会社さんの提案としては理解しとります。

○奥道委員 2月、3月に教員研修をされるというのは、ちょっとどうかなと思うんですけどね。例えば、もうたくさんどんとこう現場へ入ってしまっってから研修じゃなくて、こういう器械が1台入って、市役所でこうやってやれと、これが入るからこうだという的な事前研修を早め

にされたほうが、僕はええような気がするんですけど。

2月、3月とか、学校は忙しいじゃないですか。卒業式から入学式から、それに向けては要は年度末の、最近パソコンでやるんですけど、それでも本当忙しい、最も忙しいと言ええと思うんです。教員にしてみりゃ、個人的にはもうこの頃に学校の人を呼び出されるのはやめてほしいという時期だと思うんですよ。

○春森教育総務課長 設定時間としては、年末年始とかのところをイメージしているんです。質問があったとおり、いろいろな遅延もあると思ったので、想定としてお答えしたのは、最低のパターンとしてのイメージですので、一番遅いパターンとしてのイメージになります。1月末までにはそれなりにはしたいというのがイメージですが、ここで説明する場合も、あくまでも3月末までの契約になつていきますので、業者さんも踏まえて必ず保証はできませんので、今の状況としては、一応3月末までをそういった設定期間として説明させていただけたらと思います。

○藪内委員 まだいろんなことが決まってないですから、難しいでしょうけど、納入等のスケジュールはどんなでしょうかね。今こういう時期にいろんなものが遅れたりしている時期に、多分難しいんじゃないかなと思うんですけど。

○春森教育総務課長 最終的に本当に業者さんがここですと言えるのが、実は議会議決いただいた日から向こうも全てが稼働していくので、今は協議の段階ではこれぐらいでできたらいいねというイメージになりますので、一番は12月中に、それも先生方に負担にならないように、冬休み入る前後ぐらいのときから納品できてというのが理想だとは思っていますが、正式な契約というのはもう議会で議決いただいてからに向こうとしても多分ゴーが出ないので、そこからは最終的にじゃこの日で議決いただいて、議長さんの判こをもらったものを、こちらがいただいたものをもって本契約になりますので、そこをもって最終的なスケジュール決定はされると思っております。今は、あくまでもおおむねの仮契約段階でこういうスケジュールでという部分になるので、お答えできるのも確約したものにはならないのでという、今後の10月とか、11月の委員会が途中であれば、一応本契約後の協議のもののスケジュール感はこういうものですよというのをお出しできたらなと。先ほど言いましたように、来年の1月ぐらいになれば、今度は来年の教室数のおおむねも決まったりするので、実際に配置するところも、変わったものも全部踏まえてなるので、段階応じて変わっていったものは報告させていただけたらと思います。

○藪内委員 例えば、車の納入時期とかと一緒に、もうすぐずれがあったりして、そういう面でも、契約をきちっとした後でないといけなく、見切り発車みたいなこともしていただかないと、本当に全てがずれてずれてすると、今度は研修どうこう言っても、異動も絡んできたりすると思うんで、全てがもう本当タイトどころじゃないというようなスケジュールになると思うので。だから、結局これは言っても、要は契約しなければというところで、そこで止まりますけど、ライズさんですか、それから何かその辺も何かちょっとうまく、見切りのような、強制のような話をしていかないと、本当がちゃがちゃと、どうにも何かならないんじゃないかな。

○春森教育総務課長 先ほどお伝えしましたとおり、これは新型なんで、向こうはそれなりに在庫というか、たくさん作っとってもいい状況になっていると思います。旧型を提案されとったら、新型が出たのに作るというのは難しい部分になることは、在庫の中で調整されていく形になるので、今回の分は説明したように、全国的にはここを導入されとる自治体は結構あって、何千台とか導入されたりするような自治体もあったりするので、それなりに今、新しく発表された以上、作っている状況だと思うので、確約はできませんが、その考え方でいくと、新型が発売されたばかりであれば、それなりのスピード感でできるのかなというイメージで、私としては思っております。

○藪内委員 備前市レベルで約200台、それがもう今話題の神戸市であるとか、横浜市とかになると、それはもう膨大な数だと思うんです。それは、幾ら新製品で準備はしているとはいえ、これが人気が出ると逆に、もっとずれ込む、だから台数もよくちょっと検討しないと、さっき全部を75で通すみたいなこと言われたけど、もう少しきめ細かい、逆に言うと、最低の台数を先にいただけるような、その最低のラインを出したりして、何か調整されたほうが、それであと追加みたいな感じで、それじゃ予算が取れんのか。

○春森教育総務課長 あくまでも契約のスケジュール感になるので、ただ先ほど言いましたように、展示会を開いたときに、各社さん、私は別にこれはプロポーザルの評価品になることを予定してないので、接触してしまうんで、各社さんとお話ししたときの話として、備前市のイメージとしては、大体12月、こういうスケジュール感で、9月に追加議案で出ささせていただいて、9月末におおむね決定した段階で、12月ぐらいの納品のスケジュールの形でイメージでという話は、各社さんとした形で仕様書を作成しているのが現実です。ただ、それは触れたように、向こうも確約できないし、全てにおいてなんですが、イメージとしては大抵大丈夫だと思いますという形の回答がそのときいただいた上で仕様書も作成しているので、その形で多分、本当に工場トラブルとかがない限り大丈夫かなと思っております。

○青山副委員長 保管の方法なんですけど、これはかなり高額ですし、デリケートなものだと思うんです。

以前はそれぞれの教室にもそのまま置いとくんだという話だったんですけど、それから教室の保管方法、それから体育館なんかは特にボールを使ったり、動き回るようなところでの保管ということになると思うんですけど、その辺はどのように考えられていますか。

○春森教育総務課長 一応教室の分は、教室の中にそのまま設置した状態で置くと思っております。体育館等については、学校によってはしまわれたりする部分もあると思うんですが、そういったものも踏まえて、例えば、出し放しになる場合はよくあるショック材みたいなものをつけたり、子供がぶつかったとき緩衝材みたいなものをつけて、そういったものは場合によっては対応していないと、子供が当たったときに危険になったりするので、それはまた別途調整していきたいなと思っております。

○青山副委員長 子供たちが遊び回るところで保管ということもありますし、それから体育館については、学校開放で、一般市民の方が使われたりということもあると思うんです。その辺もちょっと考えて、保管するロッカーが要るのか、あるいは別の、これを見ましたら取り外しができそうな式になっている。かなり重たいんですけど、50キロぐらいなんで、どこか別の鍵のかかるようなところへ保管するとか、そういう検討はなされていますか。

○春森教育総務課長 特段まだそこまでの想定はしておりませんし、まずあくまでも学校開放に対する形としての分としては、あくまでも学校事業の使う環境があることが優先であると理解しているので、それに踏まえての対応というのは別途考えていくのであれば、その後していくのかなと思っておりますし、この部分について、先ほども言われたような、外すというのはかなり逆に言うとかげの元になる可能性がありますし、このプロポの前にはあったりしたんですが、つたりするの自体も逆に地震とかあったときにがんと落ちたとき、これは重たいので、非常に危ないので、安全面からいくと、この足がついたほうのほうが安全であると、私たちは思っているので、そういった環境を維持しながら、どういった形でそれぞれの環境に応じてどういう形でしまったりとか、収納していくとかというのはしていけたらなと思っておりますし、学校環境はそれぞれ違うので、それに合わせて対応させていただけたらと思います。

○青山副委員長 最後に言われましたように、学校間で倉庫のあるところないところ、あるいは学校開放しているところしていないところ等あると思うんで、学校現場の保管についての考え方もお聞きいただいて、納入されるまでには何らかの方策を考えていただけたらと思います。

○春森教育総務課長 学校からお話があれば、それについて検討してまいりたいと思います。

○立川委員 カタログもそうなんですけど、スタンドは雑費の中に何か入っているんですか。もしくはダウンツリーです、これつきですか。

○春森教育総務課長 スタンドも入った形です。先ほどいいましたように、ツリータイプの御意見もあったんですが、最終的な学校の安心・安全面とか、言いましたように、衝撃でどれぐらいの分になるかも、全部全ての耐震構造、耐震にしているんですが、足のほうが安定しているかなと思っておりますので、そういった形で全部足をつけた形で導入する予定になつてきます。

○立川委員 カタログ見させてもらったら、オプションで可動式のスタンドと手動昇降スタンドとあるし、ただし書で別途アタッチメントが必要な機種もあると書いてあるんですけど、えらい細かい話で申し訳ないですけど、可動なのか、手動昇降なのか、何かほかにオプションが要るのか、全部入っているのかどうか、その辺だけちょっと。

○春森教育総務課長 基本的には、手動でこうやって上げるタイプになると思います。

○立川委員 手動昇降スタンドということだったんで、これは可動じゃないんで、要は書いてありますように、この画面で撮影できますよと。

○春森教育総務課長 この一番下まではいかないので、必ずスペースがあった上で、ここにもカメラがあるんで、書画カメラというのがあって、プロジェクターみたいな形で画面に映すような

ものもイメージできるようになっているので、この一番下まではいかない形です。必ずそこへカメラがついた形になりますので、この光学3倍ズームレンズ搭載になったと、そういった形になって大丈夫だと思います。

○立川委員 手動でも可動でもできるよという確認で、これも全部入っているという考え方でよろしいですか。

○春森教育総務課長 マスターつきスタンド台というので提案されとりますので、はい。

○奥道委員 先ほど管理のことを大分、私も気になってはおるんですけども。管理端末が入っていると、1個だけ。これで要するに使用状況が全部管理というか、情報を図ろうと。これが、要は管理職のところでは分かるというのは、それはそれでええんですけど。問題は、その学校間の格差というのは当然出てくると思うんですけど、それについてのA小学校は使うてねえじゃねえか的な、そういうところの指導というか、管理というんか、そこは教育委員会できちっとされていくということでもいいんですかね。

○春森教育総務課長 学校間も、学校内でもできますし、実は教育委員会側からも、全部の学校の管理状況が見えるもので入ってくるはずなので、そういったものはこちらでも状況を把握しながらいろいろなことを進めていけたらなと思っております。こちら側からも発信できたりする想定となつとります。

○土器委員 使用期間というてどのぐらい使えるんですか。

○春森教育総務課長 普通の家電とかOSですと、四、五年というイメージになるんですが、器械自体のものでいくと、多分10年ぐらいはいけるんですが、問題はOSの利用期間というのも発生してきているので、アンドロイドとクロームのOSのいろいろなセキュリティーの問題であつたりの部分の期間になります。ただ、一般的に最低でも業者さんは5年ぐらいは必ず保証はされますし、器械の部品としては多分10年ぐらいは確約されるんですが、いろいろな要因で、OS的な要因であつたり、器械的な話であるという中で、起用期間がちょっとずれてくるので、イメージとしては最低5年は使わないといけないとは思っておりますが、本来はこんだけの器械ですので、10年ぐらいは、例えば、追加で七、四年目ぐらいに追加を買ったとしても、こちらのほうは予備機になったりとかでできるような形になるほうが本来はいいのだと思っております。

○土器委員 実際にどんどんと変わっていきようわけじゃから、今言われたように、対応していくのにどんなかなと思うて聞いたんですわ。

○中西委員長 質疑を終了してもよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

これより議案第111号を採決いたします。

本案は原案のとおり決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認めます。よって、議案第111号は原案のとおり可決されました。

以上で議案第111号の審査を終わります。

暫時休憩いたします。

午前10時23分 休憩

午前10時40分 再開

○中西委員長 それでは、休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

***** 報告事項 *****

所管事務調査に先立ち、執行部から報告事項をお受けいたします。

○春森教育総務課長 エアコンの設置状況について、数年前にお配りしていたもののデータ更新をさせていただきものをお配りしとります。

内容としては、まず普通教室については、基本故障とか、そういったもので改修予定のものがない限りは、基本100%設置となつとります。

特別教室については、小学校はある一定のところまでの、県内の設置率、ちょっと詳しくは知らないんですが、かなり特別教室は全国的にも設置率が高いものではないと理解しているんですが、備前市においては、普通小学校についてはそれなりの設置率となっておりますが、中学校は若干遅れた状況となっております。その部分については、随時入れていく形で、今後も予算要求していきたいと思つとりますが、それ以上に、今年度は各学校の職員室であったり、いろいろな特別教室であったり、普通教室であったりのエアコンの故障が発生しており、我々としても、その修繕に、まずその設計仕様とか作つたりする時点にかなり追いついてない状況が実はございます。順次発注しており、早めのものから順番に対応したり、今もこの8月、9月、9月入ってから壊れたものの対応をしていく準備を、今、進めているところですので、かなりエアコン自体がやはり一律全国的に入れていこうという時代を踏まえたときの壊れる時期が同じぐらいに来ているという設定の下、本当に非常に困っているんですが、修繕しながら、新しいのも導入していきたいと思つとります。

こちらの分析として、中学校の設置率が低いという考え方につきましては、校舎が古い部分があり、電源確保の部分であったり、特別教室については、後回しになったという感じのものが、教室の面積が通常教室より広いため、費用が通常の教室なんか比べてかかるという部分があり、金額的にまず確保された予算を執行するのが普通の教室で、逆に大きい部屋が後回しになっているんじゃないかと、特別教室は常時利用してないという部分も踏まえて、そういった評価になって、過去の分としてなかなか設置率が上がってないのかなと思つとりますが、先ほど言いましたように、どんどんどん全国的にも特別教室もどうかしようという流れの中、我々としても、今後、順次、場合によってはいろいろな補助とかも踏まえて補正予算で、可能であれば早く要求したいと思つとりますし、新年度予算でも、まず予算として要求はしていきたいと思つている現状でございます。

○守井委員 中学校の特別教室だったら図画工作室とか視聴覚室が設置できていないという感じで、例えば、中学校の美術室、保有数があつてから、設置室数がゼロという表示になつとんじやけど、それはどういう意味かな。

○春森教育総務課長 部屋の数です。部屋を1つ保有しているという意味になります。

だから、視聴覚室は、今、現状もう昔と違って、備前、伊里、三石、日生、吉永かとかには視聴覚室というもんがないと。

○守井委員 視聴覚室がないという意味じゃな。

ということは、例えば、伊里中学校の美術室は1つあつて、そこに設置しているのがゼロですよと、していないという意味合いですね。

このあたりを今後進めていくという考えですか。

○春森教育総務課長 先ほど説明しましたとおり、特別教室についても、まず現状の故障しているところを対処しながら、来年度以降に向けてとか、補正予算とかで、順次予算要求して、ついたものから対応していきたいんですが、今説明したとおり、逆に確保した後にまた壊れると、そっちに回してしまうので、悪循環になっている可能性はあるとは思いますが、こちらとしてはもう順次必ず要望していて、今年度、先ほどありましたように、4月、5月以降、もうほとんど、まず初めがエアコンの修繕がほとんど動いている状態ですので、一生懸命努力させていただけたらと思います。

○守井委員 今のお話では、保有数のところに設置室数というところが計上されとる、その計上している設置室数のものが動いてないのがあるよということで、それを重点的に、今、直しておるということで解釈しとってよろしいんですか。

○春森教育総務課長 おっしゃるとおりです。既にこの中でも、1と書いていますけど、壊れたところがあるのが現状でございます。

○中西委員長 実際壊れているのは何台ぐらいあるんですか。

○春森教育総務課長 今、既に2か所ぐらいあったりしたり、今、やっと思積りを取り始めたようなところも入ったりしていますので、毎月毎月もう何か所も見ているのが現状ですので、安いものもあれば、本当にもう古くて特に特別教室は書きましたように、相当金額かかるんですが、予算と比較したときに、予算をどうするのかという部分も発生したりする部分も今後は発生するかもしれませんという状況です。

○立川委員 大変予算面で御苦労されているということなんで、これはふるさと納税の企業版も、地方創生ということでしっかりその中も予算取ってほしいなと、財政当局へ、しっかり取れるように御努力いただけませんか。

○畑下総合教育部長 お願いできる分はお願いしていきたいと思えます。

○立川委員 いや、お願いできる分じゃなくて、企業版も何でも使える地方創生ですからね、子供たち、真ん中やっというんですから、ぜひ取っただけくださいなというお願いです。

それと、その他のところが、ひょっとしてスクールバスの話ですか、これ。

○春森教育総務課長 スクールバスではなくて、こういった書けないような部屋になりますので、ちょっといろいろな種類が違ってくるというようになるので、私も詳細まで知らないところで

○立川委員 例えば、武道室とか、そういったところをイメージしといたらいいんですかね。

○春森教育総務課長 そこも確認させていただけたらと思います。

○立川委員 しっかりその他也教えていただけたらと思います。

それとちょっと言いましたけど、スクールバスは入っていないんですか、これ。

○春森教育総務課長 こちらは教室だけになりますので、バスの話ではないということです。

○立川委員 入れてください。

今は言いませんけど、市立学校空調機器設置状況一覧と表題がなっておりますので、できれば教室だけと違って、その他があるぐらいやから、ここへちょろっと1行足してスクールバスというのを入れてもらったらなと思いますが、状況をつかみたいと思います。

○春森教育総務課長 まず、そこの学校用の専用の車という形にはなっていないので、出すとしたら別枠で出させていただけたらと思います。別の表として、また今後検討させてください。

○奥道委員 表を見せていただいて、不安というか、各学校の配膳給食室である部屋はあるんだけど、ついているところが小・中で1校ずつということになっているんですね。配膳給食室というぐらいじゃからお昼御飯の準備をする場所じゃないのかな、そこにエアコンがなくて大丈夫なんかなというのは思うんですけど、これも壊れたということでもいいんですかね。

○春森教育総務課長 こちらのほうは、多分用務員さんとかが各コンテナで、車で運ばれてきたところで、各教室に分ける部屋になつとります。おっしゃっているとおり、夏場とかその作業するの、牛乳とかもあったりいろいろするのとかも踏まえて、エアコンが欲しいなという要望がないわけではありません。ただ、順番的に、まず子供の教室のほうで、今、優先されている部分が過去にあったのかなというような状況になっているので、こういった部分も踏まえて対応は今後していきたいなと思つとります。

○奥道委員 同様に、休憩室のある部屋もやっぱりそういう、それが無い学校もあるのはあるんですけども、小学校の場合4校ありながら一つもついてないという、じゃ休憩室になんないんじゃないかなと思っちゃうんですけど、そこらも同じような理由なんですかね。

○春森教育総務課長 まず優先的な形が普通教室になって、その後、特別教室とか、先生の職員室とかになってくる部分がございますので、こういった部分の部屋というのが、特に管理室になっているので、そういった部分も踏まえての部分は後回しになっているのが現状で、全体的な部分としてはいろいろな調整、見直しが必要だなと、今思っているところです。

○中西委員長 それでは、先ほど立川委員より出ましたスクールバスの関係の空調の状況一覧と、それから今、奥道委員が言われた共同調理場のエアコン設置の状況、これはここの中には出

ていませので、次回の委員会ぐらいにまたお願いをしておきたい思います。

ほかにはございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○春森教育総務課長 マイクロステップスタディーの検証について、マイクロステップスタディーにつきましては、新年度予算で予算計上していない現状になっとりまして、契約とかも、今年度はしておりません。利用状況等を、昨年の当時のデジタル課で検証して、新年度予算ではもう計上しない形で、4月以降は、今、向こうも去年の段階で、去年もお金を契約しないまま、取りあえず向こうの御厚意で使わせていただいた状況になっとりました。その関係の部分で踏まえて、今年度はもうそのまま予算も計上しないまま、活用していないという状況になっとります。

○青山副委員長 これについての総括、使われた結果報告はどうなっとんですか。

○春森教育総務課長 4年度のものについては、恐らく検証実績が契約に基づいて出されているのが、どれだけ利用されたかは出るんですが、5年度については、先ほど説明しましたとおり、向こうの御厚意で使わせていただいているので、実績としての活用というのが提出いただけないという形になりますので、ただしその前年の段階においてもいろいろ私としても確認した部分として、その予算の要求の話とは別として、多分いろいろ議論が皆さんこちらの引換えでも導入時もあったと思うんですが、教育のアプリというのを、別のアプリも使いながらこれ入れた関係で、やはりその両方が全部使われる環境になかった部分として、活用状況が有効に活用できている学校となかなかできてなかったが学校もあったりするのかなという、私としては、今、現状分析しております、あくまでも契約していない形以降の私の認識なんですが。そういった部分でこういった教育的なソフトアプリについては、いろいろな部分も、再調査した上で、今後導入していくのを考えていかなければならないのかなと、今、理解しているところです。

○青山副委員長 これについて契約をなぜしなかったのかというところで、あまり効果が見込めなかったとかということかなと思うんですけど。その辺検証されて、一度また厚生文教委員会で報告いただきたいと思うんですけど、いかがでしょう。

○春森教育総務課長 そもそも契約締結していないので、利用状況の分析というのが実際、今できないというのが現状で、もともとこれは先ほど言ったように、管理ツールとかがあったわけではなく、分析というのが、岡大の分析になるので、現状はそういったものができないというように思っております。あくまでも分析の部分は、令和4年度の実績を令和5年度に分析した結果、当初予算の計上をしていないという理解になっとりますので、新しく分析するというのは、もう現状難しいかなと思っております。

○青山副委員長 この分析結果は、報告ありましたかね。

○春森教育総務課長 令和5年度に、当時のデジタル担当課長が資料としては多分お出ししていませんが、報告事項としては2回ぐらいはされていると思っております。

○青山副委員長 教育委員会として、これを使った結果の効果とか、そういったようなもの、大

学での分析じゃなくて、学校でどうだったかと、学校間の意見、感想なり、そういったようなものというのはまとめられていないんですか。

○春森教育総務課長 一応私自身として思っているのが、やはり別のアプリをもともと使っていたものに対して、これを導入したことによって、両方の利用環境がそれぞれの学校で、何を、どっちを使えばいいのかが分からなくなった状況はあるのかなと思っております。私どもとしての分析です。教育総務課長として、デジタルを受けた形の分析になるんですが、そういったものも踏まえてですが、先ほどの電子黒板とかと同様に、ちょうど来年ぐらいからが備前市の教育委員会が学校と一緒にいろいろなアプリとか、デジタル化の再見直しをする年度が来年以降、タブレット導入と同時にございますので、そういったものに対して、こういったものの導入状況はきちんと踏まえながらやっていかなければならないなと思っておりますが、個別にこのマイクロステップスタディーについて、今後分析をするというのは、昨年度この予算を計上しなくなった段階で、私としてはもう終わったんだと思っております。

○立川委員 今、終わったというような言い方で、以前、2021年の岡大モデルを使ってやったと思うんですけど、サービス期間が先ほどおっしゃったように、終了したと、1年間御厚意でということの解釈でいいわけですかね。

それでしたら、さっき出しましたが、検証についてもデータ出す必要ないよというスタンスかなという気はするんですけど、できるだけお願いをしてみて、岡大モデルはどうなったのかな、せっかく導入したわけですから、2年たっているわけですから、できたらお願いをして、分析結果ぐらいでも手に入れていただいて、お知らせいただけたらと思うんですが。

○春森教育総務課長 出していただけるのであれば分析はできると思うんですが、現実には、そういう形になると、かなりいろいろ違ってきますので、難しいとは思いますが、トライはしたいと思います。

○中西委員長 ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○春森教育総務課長 タブレットとパソコンの使用状況等ですが、学校の端末が、パソコンが今回電子黒板が入ったりするんですが、今どんだけあるかという説明をさせていただきます。

まず、児童・生徒用のパソコンが約1,800台ぐらい、児童・生徒用タブレットは1,800台ぐらいございます、生徒数に応じてありますので。それとは別で、先生方が持っている端末が2系統ございます。校務系と学習系といいまして、校務系という端末が生徒のいろいろな情報を管理している形で、そのネットワークについては、ほかの人は全然入れない、クローズされたネットワークとなつております。学習系は、生徒の端末と同じネットワークでいろいろな、先ほどのアプリとかを使って、こう展開をしていってとかという形ができる端末がございます。それがそれぞれ先生用なので、同台数ぐらいあって、約330台相当ぐらいございます、今現状全ての学校で。先生プラスそれから県職の先生以外にもこういった講師で来られている方々も踏まえて

の配置になりますので、多分思ったりより台数がある状況になつとります。一応、今、現状の使用状況はこのようになつとりますが、この後、先ほども言いました来年以降いろいろなネットワークを見直ししていく、器械を見直す話をしたんですが、今の来年度以降の想定としては、来年度以降、今、文科省が先生用の端末については、校務系と学習系を同じネットワークではという方向性が出とります。

今までは、クローズされてアクセス自体ができないという解釈だったんですが、今度は同じネットワークに入れて、校務系にパスワードとか、生体認証とかで、そこに入る権限を変えることによって、同じネットワークにいることによって、その両方のネットワークに持ったデータを連携しやすくなるという構想になっておりまして、そういったものの環境整備ができれば、先生用の端末は、今の分が半分ぐらいになるという見込みで、その代わりそのネットワーク系にその部分のお金がある程度は投入されるという形になるんですが、そういう方向性で、今、現在検討中でございます。こちら、また詳細までは委員さん多分お伝えしても分かりにくい部分だと思っておりますが、時代の流れがこういう方向性に進んでいるよというのは、まだどこかのタイミングで委員会でも報告させていただいて、こういったものをそのとき準備していったり、いろんなもののアプリもこういうものも全部プロポーザルしながら入れていくスケジュール感があるんですよというのを、どっかのタイミングでお示しできたらなと思つとります。

一応今現状のパソコンの環境としては、以上になります。

○立川委員 パソコン、タブレットで1, 800台、学習系、いわゆる2系統あるけども、校務系で330台、大変な数だと思います。さっきもちょっとお話出たんですけど、このメンテナンスひっくるめて、OSの交換ひっくるめてメンテナンス、大体どの程度の予算規模と言ったらおかしいですけど、必要なんでしょうかね。概算で結構です。

○春森教育総務課長 5年リースで入っているものであれば、リース期間中で、業者さん側の修繕対象になったりしますが、実はこの8月をもってちょうどリース期間が切れましたので、今後、改修するに当たっては、市の修繕費を使う形になります。普通よくあるのは、私もデジタル系の職員なので、実は、そういった部門長いんですが、通常はそういった期間が過ぎれば、プラス1年か2年で別のを入れるというのが、修繕期間設けてやるのが一般的ですので、先ほど言いましたように、来年以降にいろいろな器械の更新とかを、大きな金額を皆さんにお示しするようになると思っておりますが、私としても予算要求していった、学校の中をデジタル化の、文科省の新しい考え方に基づいた環境にしたいと思つとります。

○立川委員 導入から5年、ちょっと頭の中で計算しよったんですけど、本当に使えないOS、もうメーカーさん勝手に切りますからね、そういった費用も大変だなという思いはあるんですけど。1, 800台はちょっとずつ減ってくると思いますけど、大変なことになるなと。

今、おっしゃっていましたが、いろいろ変わってくるのは、Gov-Cloudもにらんで、ラインに入っとなすかね、文科省からフォローしてくるやつは。

○春森教育総務課長 文科省の考え方は、また別で、同じような系統なんですけど、ネットワーク自体が教育委員会のネットワークになりますので、G o v - C l o u dに入る部分の中でもまた別の、その中の位置づけがまた別の形になって、呼び方としてはいろいろな呼び方がございます。先ほど言いましたように、完全に外に出す形でゼロトラストとかという呼び方をされたりする場合もございますので、そういった形の、学校の現場に即したネットワーク環境をつくっていく形になります。場合によっては、今現状の備前市の単独のネットワークの中にあるものを切り離す場合もございますので、そういったものの見直しというのは、現状の総務省型の分に入っていて、合わない部分も出てきますので、そういった部分というのは、学校現場でのセキュリティーポリシー等をつくった上で進めていったらなと思っております。

○立川委員 セキュリティーもそうですし、かなり費用がかかってくるのかなという思いはしました。部長、しっかり企業版をもらって、その中からしっかり取っていただけたらと思います。

○中西委員長 ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○谷口小中一貫教育課長 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果の概要について報告させていただきます。

お手元に資料がございますので、見ていただきながら、聞いていただけたらと思います。

本調査は、4月18日木曜日に、小学校6年生が183名、中学校3年生が161名受験しております。

学力の概要といたしましては、この資料の2枚はぐっていただいた裏ページ、4ページ目に掲載しておりますとおり、小学校の国語、算数、中学校の国語、数学、いずれの教科におきましても、全国、県の平均正答率を下回っております。特に、小学校の国語と中学校の数学については、課題が顕著な傾向が見られました。

平均正答数の分布に見ますと、本市の分布の様子はほぼ正常曲線となっておりますので、一番多いのが中位層ということになります。その中位層の子供たちを中心に伸ばしていく日々の授業の取組が重要であるというふうに考えております。

1枚戻っていただきまして、3ページ目のところ、2枚目の表ですが。を御覧いただきますと、この結果から、2番のところに、学校及び市の教育委員会の取組というところに記載をさせていただいておりますとおり、指導訪問、校内研修等を通して現在進めている授業改善等の取組について、一層手綱を緩めることなく継続し、その質の向上を図っていくということが大切であると考えております。

また、校長の学校経営の支援及び先生方の人材育成についても、随時、進捗状況を把握し、必要に応じた支援を行ってまいりたいと考えております。

○奥道委員 6年ぐらい前だったですかね、かなり備前市の生徒・児童の成績がよかった年が何か1年か2年あったか、その年代の子だけが、小学校もそうですし、中学校もかなり優秀だった

ことを記憶しておるんですけれども。その世代とそれからまた他の世代との違いが何かあったのかなというのを後からこういろいろ考えてみるんですけど、その点の評価というのはいかがでしたんでしょうか、分かる範囲で結構ですから。

○谷口小中一貫教育課長 やはり学年ごとの子供たちの実態というものが異なっておりますので、一概にどうだったかというところがなかなか比べづらいというようなところではございます。

○中西委員長 ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、電子黒板の件もありましたし、一度委員会としても機を見て、現場のそういうところの教育も1回見に行くのもいいのかなと思いますけど、また改めて皆さんに御相談したいと思います。

○守屋国際教育課長 私のほうから、ALTの採用と配置状況についてということで、資料を御用意させていただいております。御覧いただけたらと思います。

令和6年度ALT各園・校配置一覧、9月現在のものを作成しております。

現在のところ、10のこども園に対して2名のALT、10の小学校に対して6名のALT、5の中学校に対して5名のALT、合計でALT13名で、こども園、小学校、中学校へ配置をさせていただいております。

○立川委員 当初予定とどのぐらい差があるんでしょう。ALTというのは、全校配置というお話から、なぜこうずれたんでしょうね。

○守屋国際教育課長 少なくとも昨年度、全ての園・小・中学校に1名ずつ常勤でALTが配置できておりましたので、ALTの数が25名という状況でした。今回、13名で25の園、学校を回しているわけですが、私どもとしては、少なくとも昨年度と同じ状況の25名は確保したいなという思いで、公募もさせていただいております。ただ、実際の公募は20名近い人数があったと思いますが、面接、それから模擬授業等の結果で、どうしてもやはり外国人なら誰でもいいというわけにはいきませんので、特に、キャリア、こども園や学校でのALTの経験があるという方、それからある程度日本での生活経験があって自立できているALTというようなことを条件に採用をさせていただいておりますので、どうしてもこういう人数がやっと今、確保できているというのが実態だと思います。

ただ、採用につきましては、引き続き公募は継続させていただこうと思っております。年度の途中でも、現場で受入れ可能なところがあれば、配置をいたしますし、さらに言いますと、次年度に向けてきちんと人数が確保できるように公募は継続したいと考えております。

○立川委員 前年度までは委託という形から、直接雇用するんだという年度に変わって25名が13名になっていますと、この辺の実情についてどう分析しておられるんでしょう。先ほど生活環境とか、誰でもいいというのはあったんですけど、そうではなくて、何とかこれ維持したいと

ということで当初スタートしたんで、その辺読み違いがあったと思うんですけど、委託と直雇の問題があるんでしょうけど、その辺はどう捉えておられるんでしょうか。

○守屋国際教育課長 あくまで公募ですので、しかも採用試験もやっております。先ほども申し上げましたが、モデル授業とそれから面接が中心なんですけど、結果として13名の今の備前市にとっては最適なALTが確保できたということであると思います。

何度も申し上げますけれども、外国人なら誰でもいいというのであれば、二十数名は確保できたと思うんですけど、やはり学校現場ですので、そういうわけにもいかないと思います。今の状況の中で応募してきた外国人の皆さんを見させていただいて、最適なALTを確保できているというのが現状だと思います。

○立川委員 大変御努力いただいておりますのは、よくひしひしと伝わってきます。

昨年25から13、人選はしていると言いながらも、子供たちに対する質の低下というのは、どう見ていらっしゃるんでしょうか。大丈夫だとは思うんですけど、それが一番気になる場所なんですけど、質の低下について、何かありましたらどうぞ。

○守屋国際教育課長 中学校は5校ありますけれども、5人のALTを配置しております。これは、中学校の英語の授業の時間数が一番多いので、あまり掛け持ちというわけにはいかない、しっかり1名ずつ常勤として配置をして、英語教育に取り組んでもらっています。

それから、小学校、こども園と見ていくと、小学校は今は5、6年生が教科としての英語の取組、それから3、4年生は外国語活動としての取組、備前市ではこども園でも英語をやっているんで、1、2年生何もやらないというのはもったいないということで、1、2年生での英語の授業時間を確保していただいておりますが、中学校に比べると時間数的にはちょっとゆとりがあるので、1人のALTが2校、3校、掛け持ちをしていただいても、そんなに以前と比べて質が落ちたなという英語教育にはなってないと思います。ただ、委員おっしゃるとおり、もう一日中ALTがいた環境というのが、今はその部分がありませんので、その部分を考えると、ちょっと申し訳ないなという思いはあります。

それから、こども園10園を2人のALTが、今、見てくれているわけですが、いわゆる幼児英語というのを一番私は個人的にも非常に大事だと思っておりまして、備前市で取り組んでいるフォニックスとかTPRという手法をきちんとできるALTでないと、こども園を担当してもらうわけにはいかないというところから、2名で何とか回していただいているという感じですが、できればこども園は早急に増やしたいなという思いを持っております。現状で、最良のこの取組ができるように、できる限り頑張りたいと思っております。

○立川委員 特に幼児英語に関しても、今おっしゃったように、専門職まあまあ上段から構える英語ではなくて、中に入ってもらえる英語だと思いますので、御苦労はあると思います。

ただ、今おっしゃったように、小学校も時間的に余裕があるよと言いながらも、掛け持ちというところなんで、これはネット環境を使ったり、やっぱり子供たちになじむほうかという気はし

てしょうがないんですけど。そういうネット環境での対話ツールはあると思いますが、利用状況はどうか。例えば、外国の学校とつながったり、そういったことでちょっと質もお考えいただけたらと思うんですけど、どんな具合ですかね。

○守屋国際教育課長 現実的に、昨年から引き続いて中学校ではほぼ全ての中学校で、今、備前市内にいるALTを一堂に会してその中学校の生徒たちとオンライン上で英語のやり取りをするというイベントを定期的に行っております。

今、委員おっしゃったように、これを小学校まで何とかできる状況ができれば、さらにいいかなと思いますので、前向きに検討していきたいと思います。

○立川委員 オンラインも利用しながら、ネット環境も利用しながら、子供たちの英語環境、今はしょうがないわけですから、13人で回しているというところなんで、補完できるように御努力いただいていると思いますので、今後とも引き続きお願いしたいと思います。

○藪内委員 当初25人でということで、私も何か質問したと思うんですけど、その25人いなくても兼務兼務でやっていけるところもあるんじゃないですかとお尋ねしたら、いやいや25人要りますと、これは決して嫌みではなく、結局今はとても仕方ない状況なのかどうか分かりませんが、結局は仕方なくであれ何であれ、13人でやっておられる。それで、結構いい教育もできているということなんで、それは25人にこだわることなく、13名でいいのであれば、それはそれでやっていかれて、先ほど立川委員が言われたオンラインを利用してのそういうことを、それから全体を集めて大きなイベントをやるとかで対応されて、それはそれで、そんなに13人だから足りないという考えじゃなく、それでやっていくという考えでもよろしいんじゃないでしょうか。

○守屋国際教育課長 25名というのは、こども園・小、中学校全部合わせて25あるわけですから、一日中そのALTが学校、こども園の中にいるという環境は、やはりベストだと思います。

さらに言うと、小学校は6学年、中学校は3学年あるわけですから、各学年にALTがいる、さらに言うと、各クラスにALTがいるという、環境ということも考えて、最もよい環境はと言ったら、もうそれは各クラスにALTがいるというのが最もいいわけで、ただ現状そういう状況にはないわけですので、与えられている現状の中で最善を尽くすというのが、私たちがやらなきゃいけないことだと思っております。

オンラインにつきましては、このALTというのは授業の中でやっているというのが最も効果的なわけで、月に1回であるとか、あるいは半年に1回、イベント的にオンラインでやるというのは、それはふだんの授業の中で培ってきた英語をアウトプットする場として、そういうイベントを考えるというのは、私はいいと思いますけれども、そのイベントだけで英語の力がつくというもんでもないと思います。また、そういったイベント的なことをやるとなれば、これはこれでまた学校、あるいは先生方に御負担をかけなきゃいけないということになりますので、一番いい

環境は、授業の中できちんとこのALTが日本人の英語の先生と一緒に英語を担当してもらえているという環境、これはもう最適だと考えております。

したがって、できれば、取りあえず昨年度の25名までには戻したいなという思いを持っております。

○数内委員 今、説明いただいたことの究極が、インターナショナルスクールであるとか、そういうことになっていくのではないかと思います、どうなのでしょうね。

前に私、質問したことがあるんですが、例えば、各校1名という、25名という提案がありましたけれど、例えば、備前中、今すぐに生徒数が出てきませんが、備前中も1人、三石中も1人、それでバランスやっぱりよくないと思うんですね、何人もいれば、人数合わせればいいということじゃないですけど。そういうところもちょっとバランスを考えていただいたほうがという、以前に質問したんですよ、私。いやいや25名で大丈夫というようなことを言われましたけれど、そのことも含めて、要は何かというと、要は柔軟にやっていただけて、少しこれは余談になりますけれど、今回、歴史と伝統と文化を体験するツアーで、球場内で何かその中高生の方が非常に積極的に売店であるとか、ああいうところで、大人というのは変に形ばかりにとらわれて、買物も私なんかできないですけど、子供たちはもうすごくスムーズに買物とかされていたということらしいんです。ALTとかでやっぱり英語に慣れていることの現れかなとか、ちょっと聞いて思いましたんで、その辺も含めてもう一回よく検討していただけたらと思うんですが、どうでしょうか。

○守屋国際教育課長 いろいろ御提案もいただきまして、ありがとうございます。

ただ、やはり英語の授業というのは、例えば、生徒数によって英語の時間数が変わることはありません。どうしても中学校、小学校で行っている教育課程に沿った英語の時間数というものがありますので、その時間数、またはそこから成るクラス数に応じたALTの配置ということを考えなきゃいけないんじゃないかなと思うんですね。したがって、学校のその児童・生徒数の規模に応じてALTを配置するというのは、これは非常にやはり難しいし、無理があるんじゃないかなと思っております。

それから、今、アメリカでの今回の研修のことでの話をいただきましたが、実はIBの夏の研修とちょうど重なったものですから、私たちやりたいやりたいと思いながらできなかったんですけども、次年度に向けては、今、備前市のホームページに「Biz en Quest」という英語での動画配信をしております。ぜひそういう海外の研修に、本市の国際交流活動の一環として、児童・生徒が海外へ出るときに役に立つ英語、それからホームステイのときに必要な英語というようなものも、この「Biz en Quest」という動画配信で、児童・生徒はもちろんですけども、大人の皆さんも見ていただいて、勉強ができるような、そういった政策をぜひ次年度に向けてやりたいと思っております。こういったものも、ぜひ御利用いただけたらなと思っております。

○**藪内委員** 説明はよく分かるんですが、またこれから言うことは、一緒にしちゃいけないんですけど、デマンドタクシーもそうなんですけど、何ですかね、やっぱりボリュームの違いがあるんで、そこにはやっぱりそれなりの手当てをしないとイケないという頭がありまして、生徒数によって変えることは難しく、あまり意味がないとかというよりも、やっぱり生徒数が多いんだから、やっぱりそれなりに30人のところと何百人のところを、一緒にやっぱり考えられないと思うんで、今、さっき言われたデマンドとかの例えは悪いですけど、やはりそれなりのボリューム、バランスを持って柔軟にやってほしいということだけをお願いします。

○**守屋国際教育課長** よりよい環境づくりには、今、委員がおっしゃったようなことも配慮しなきゃいけないかなと思います。前向きに検討していきたいと思います。

○**青山副委員長** 来年度の予算ことも考えていかなければいけないと思うんですけど、来年度も同じような直営という方法でやられるんですか。その点はどうなんですか。

○**春森教育総務課長** 来年度について、予算の話になりますので、確約はできませんが、今現在は直営で雇った方を継続して雇うということが、まず第一前提だと思っております。一度雇った方をそう簡単に委託先で雇うというのは現実的じゃないので、そういったものも踏まえると、もう直営に一回切り替えた以上は、雇った方に対する今後の労働環境に対する、こちらもその方々が更新したいとか、もう一遍更新するとき、1年間の実績評価はした上で延長はする予定のことを考えるんですが、そういった部分を踏まえたときに、やはり労働条件考えたときに、簡単に委託に切り替えるから、はいそうですねとはならないので、現状は多分直営になっていくと思いますし、先ほど説明ありましたとおり、まず25人を目指す形は踏まえながら、さらなる形として、想定としてはおっしゃったとおり、学校規模に応じた体制というのを考えていく必要があると思いますので、そういった形での予算要求になっていくかなと思いますが、あくまでも要求なので、予算額が幾らになるかは、先ほどの工事と同じで、修繕と同じでなるんですが、我々としてはそういうような形で考えております。

○**青山副委員長** 今、雇用されている方というものは、これは何年か契約ということなんですか。1年契約なんですか。このまま続けられるんですか。

○**春森教育総務課長** 一部任期つきの方がございますので、任期つきの方は2年、3年の形で、今、契約した形になっているので、来年も必ず更新されることが前提ですが、基本、会計年度任用職員になつていきますので、一応1年間でもう一遍その状況に応じて更新になります。ある一定の年数までもし更新が続けば、会計年度任用職員というのは、再公募に手を挙げないと継続できないことになっているので、今、今年のは1年目の採用の会計年度の方については、その方の職務の状況に応じて延長することは可能だと思っております。

○**青山副委員長** 年度ごとで25名の方をそろえるというのは、なかなか御苦労だと思うんですけど、今まで業者でやっておられたことが何か問題点があったのかどうか、そこら辺の検証もされたと思うんですけど、子供たちにとっていい環境、25名が必要最低限でいい環境だということ

とで、またしっかり御努力をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

○中西委員長 ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

暫時休憩いたします。

午前 11 時 37 分 休憩

午後 1 時 00 分 再開

○中西委員長 休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

***** 所管事務調査 *****

所管事務調査に入ります。

香登認定こども園について調査を行います。

これに関しましては、予算決算審査委員会にも上っていますし、現地については当委員会の前の時代に現地を1回、この委員会としては見ているということも踏まえて、予算決算審査委員会の中で現地を1回見させていただくということにしておりますので、御理解いただきたいと思います。

○文田幼児教育課長 香登認定こども園につきましては、これまでも大内を含めた地区全体として、また園児数の動向も踏まえて、移転の候補地を検討してまいりました。この定例議会の補正予算におきまして、工事設計監理委託料として2,200万円を計上させていただいております。

昨年度の6月の厚生文教委員会で、候補地の一つの案として、小学校校庭を視察した経緯もございますが、校庭への建設については、こども園の送迎の際、通行に支障が生じる懸念がございましたが、今定例会に提案の補正予算におきまして、近接道路拡幅に係る工事設計予算も計上されています。

教育長からの一般質問への答弁にもありましたとおり、道路拡幅によりまして送迎の支障も解消されることから、校庭への新設により、こ・小連携が一層進められるものと考えております。

詳細につきましては、来週の予算決算委員会で資料等も提出できる予定にしておりますので、そこで御審議のほうよろしくお願いいたします。

○中西委員長 予算決算審査委員会の審査の前に、今当委員会にも何もこう事前の連絡もなくというのはいかがなものかということで議題として上げていますので、その点を考慮していただきながら、質疑をお受けしたいと思います。

○立川委員 委員長から冒頭お話もありましたように、前回の委員会で候補地を見るということで行かせていただきました。候補地を見させていただいて、そのときにこれこうやねと、グラウンド狭くなるよね、これ川に蓋せんと道広がりませんよねというようないろんなお話が出たと思うんです。そのときのお答えは、地元とも検討しますというようなこともあったと思いますが、その辺の経緯について、さっき委員長からございましたように、報告もなしにいきなり予算が上

がると、これはこれでしょうがないいんでしょうけど、そこら辺の、今後、今回議案として提案された経緯、それまでにどういうアクション起こされてここへ至ったのか、その経緯だけお知らせいただきたいと思います。

○文田幼児教育課長 今回は、拡張工事の案があったので、予算計上が急なことになってしまって申し訳ありません。

前回の厚生文教委員会で視察を行った後、様々な問題があるということにも気づきましたので、例えば、ほかの場所で候補地になるようなところがないとか、現在の場所で何か手だてがないかということも検討してまいりました。

そうした中で、教育委員会といたしましては、やはり校庭での建設というところが一番近道なのかなという結論に至っています。

○立川委員 地元とのお話とか、例えば、小学校校庭減るけどどうよというお話をされるとお聞きしていたもんですから、僕、市長がこの山も削ってもええんやとかという記憶があるんですけど、その地元との折衝具合はどうだったんでしょうか。お話では、予算がついてから話しますというようなことの答弁だったと思いますけど、実際に地元小学校、減る小学校、それから通っておられる保護者、それからそれに関係される方、いろいろなところ等の交渉といたしますか、お話は進められたんでしょうか。

○文田幼児教育課長 先ほども申し上げましたとおり、拡張の工事の案が出ましたので、急なことにはなっています。地域への説明というものも、時間を取ってすることはできていません。保護者の方とかも、特別に集まって個別にお話をしているわけではございません。やはり校庭への建設ということで、うわさ話だったりとか、そういったことが独り歩きをするような懸念もございましたので、まずは予算提案をさせていただいて、委員の皆様に審議させていただいてからという流れになっております。

○立川委員 どうも順序が逆なんじゃないですか。あのときに、地元とも調整しますというのは覚えているんです、はっきりね。小学校はグラウンド取られるわけですし、実際通っておられるのは地元の子供たちなわけで、今のお話でしたら、拡張で、あのときもお話ししましたよね。道路を広げようと思ったら、もうお金負担するしかないよねというお話もした記憶があらうかと思うんですけど。それができたから急にやりますと。ではなくて、片一方で地元ともしっかり調整しましょうというのはどこに行ったのかなと。教育長答弁で、予算が決定してから話をしますというスタンスならスタンスでもいいんですけど、それっておかしくないですかというところのお話なんです。

うわさ話で言っているから、議員が議決した後で、議員にはオーケーもらっていますよ、どうですか、じゃないじゃないですか。子供たちが通うわけですから、もって親御さん、御近所見守りしていただいている御近所の方たち、地元へのお話のほうが先のような気がするんですけど、それはされていないという認識でよろしいですか。事後になるということの答弁がありましたけ

ど、それでよろしいですか。

○畑下総合教育部長 議会でも教育長が答弁したとおり、今回、確かに順番が逆ではないかというお話はもっともだと思うんですが、今回については地域のほうには説明させていただきたいと思います。

○立川委員 地元の方ともお話しする機会もしっかりあったわけじゃないんですけど、もろ手を挙げて賛成という声はなかったですね。何で地元に話がないんだろう、通っている子供たち、こども園の中ではこういう話になっていますというのは、保護者には説明されたんですか、園で。こども園の中で御説明はされたんですか。

○文田幼児教育課長 こども園に関しましては、毎月園長会とかがあります。いつ、どこでということは記録がないんですけども、香登のこども園であったりとか、そういったところに触れたときには、園長会の中では共有しています。ただ、決まっていないことを外部には漏らせないもので、園長会のところの中での協議となっています。

○立川委員 決まってる決まっていないというニュアンスがちょっと分かりづらいんですけど。じゃ予算がつけば決まったという解釈でお話しされるんでしょうか。それとも、この方向で今したいなという希望で動いているんですけど、どうでしょうかという持っていく方、この二通りあると思うんですけど。教育委員会とすれば、もうこう決まったからねという話を持っていきたいということの解釈でよろしいですか。方向性をお話しして御意見聞くというところはないんでしょうか。

○畑下総合教育部長 相談して進めていくというのは、本来のお話の進め方なんですが、今回につきましては、こういう急いだ形での出し方になりましたので、今回につきましては、方向性が決まりましたら、説明していきたいと思っております。

○立川委員 園長会等々でもお話が出て、これは決定じゃないから外に出してもらったら困りますよ、ただ関係者にはこういう方向で動いていますよ、希望でできたらいいなということで検討中ですということぐらいは言ってほしかったかなと。これはお願いをします。

その上で、仮に予算がついたら、地元へ御説明した、保護者へ御説明した、やめてくれえというお声が多かったらどうされるんですか。また、予算流して地元調整に時間が要したためということで繰越しされるんでしょうけど、そのときの方向性はどのぐらいのタイムスケジュールを取っておられるのか。

○畑下総合教育部長 こちらのほうとしては、もし予算がついたら至急に地元に説明会はやらせていただこうと思っておりますし、その反応につきましては、またすぐその中で検討はしていこうとは思っております。やっぱり説明した状況の中によるとは思うんですけど、今こちらのほうでもどういう形でというのがつかみ切れなところがあるので、それはその中で検討して、それ以降のスケジュールとなると思います。

○立川委員 いやいや実施設計されるんでしょう、予定では、予算が出せる状況では。道路にも

蓋して、実施設計されるということは、エンドを決めてかかるんじゃないですか。大体工期というものを設定するでしょう。予算が決まりました、入札しました、ごそごそしました、来年1月に着工します。そういうスケジュールたつじゃないですか。このたび地元の皆さんの了解も得られたら、園については実施設計しとるわけですから、やりますよと、じゃ来年4月開園を目指しますよとか。そういうスケジュールはあるんじゃないですか。ただ漠然とぼおんと上げてきたわけじゃないと思うんですけど、そこら辺のタイムスケジュールをお尋ねしておりますが。

○畑下総合教育部長 そういった形で物事が進めていければ、設計をして、それで今度工事を発注する予算も上げないといけないですし、来年の4月というのは、今の時期から無理じゃないかなとは思っているので、9月ぐらいの形になるんじゃないかなと、スケジューリングを持っています。

○立川委員 地元との調整期間はどのぐらい見ておられるんでしょうか。1か月、2か月、3か月、半年、計画を立てて動いていると思っていますので、いやもう行き当たりばったりですわというてまとまりつかなんなんですよ、1か月たとうが、2か月たとうが、3か月たとうが、知りませんへんだということではないと思いますので、大っきなステージのスケジュールあると思うんですけど、なければいけないで結構ですし、あれば聞かせてください。

○畑下総合教育部長 できましたら、もう即、1月以内でできるものでしたら、そのぐらいで調整は取りたいとは思っております。

○守井委員 以前から適地選定という予算があって、一応それは流れたんだというような話で、適地選定ですから、職員の中でいろいろ検討して、ここが最適の場所があるかなというあたりは、図面の上だけではできますけれども、用地取得とか、いろんなそういう問題が絡んでくるとになりましたら、物事が進むか進まないというのは分からないんで、選定自体もできないというようなことになるわけじゃないんかなと思っています。

以前のは、備前市議会議員さんからも何か要望で、ぜひ広げてほしいというようなお話がございまして、それを引き継いでの計画だったろうと思いますけれども、昨年8月に現地の小学校自体の校庭も何か視察までしていろいろ検討したというようなことなので、問題点は問題点、それから適正であるというところは適正である、用地取得なくて済みますから非常に有利な条件はあるんじゃないかな。ただ、校庭が狭くなったり、そのことが児童、小学校にも影響があるかどうか、その辺の問題をどうするか。

それから、先ほどもお話しございましたけど、幼小一貫ができると、同じ地域での教育から一連でできるという、そういうメリットもあるのかなと思いますし、だから結局どちら説明するにしても、ここが一番最適であったかなというようなことのやっぱり評価というものをきちんとまとめられて、いい点、悪い点、問題点、先ほどございました進入路の問題等も、一つの問題点だったものを解決しながら、やっぱりここがいいのかなということをしっかり説明ができる資料、検討内容を示していただいて、前へ進めるということを御説明していただければありがたいんじゃないかなと思いますんで、そのような考えがあるかどうかだけ、お聞きしたいと思うんですが。

○文田幼児教育課長 まず、校庭への検討というところですけども、必ずこれが一番いいと幼児教育課で思っているわけではなくて、香登認定こども園の移転をする場合の検討の中で、ここが一番可能性が高いと思っています。先ほど守井委員が言われたように、用地買収とかもなくてきます。それから、校庭の基準に関しましても、小学校の設置基準というものもございます。あとこども園の設置の基準もございます。現在の校庭の場所で想定したときに、そこらあたりもクリアできると思っております。実際に、東京ですけど、文京区なんかでは、そういったような施設も実際にございます。もちろん過ごし方であったりとか、小学校とこども園との協力のところであったりとか、そういったところも問合せもしておりますけれども、一番香登のこども園を校庭でする場合に問題点であったところが、車の進入するところ、川の道路のところ、そういったところが今回はクリアできそうなので、今回の御提案させてもらっています。

○守井委員 その説明の内容については、私たちに説明する以前に、やっぱり地域の方にきちっとそういうことが説明できるものをやっぱしよく検討されて、やっぱしここが一番最適な場所ですよという意味合いのことが説明できるものをぜひつくってほしいと、私の提案でございます。

それで、先ほどお話もありました来年の4月から開園というような話も出ておりましたけど、これから実施設計をやるというような話なんで、実施設計するだけでも1年近くかかる場合があるわけで、それからまた建築ということになりましたら、建築自体も1年以上かかるようなことで、来年の4月何かの話など到底ならない話だろうし、それは2年先ぐらいの話ぐらいのスケジュールになってくるような感じで、私的には思いますので、その辺はまだ地域の人に、せっかく造る施設ですから、地域の人に喜ばれる施設として、存続して長く使えるものになっていくように、やっぱし地元の説明もしっかりしていただいて、事業がうまく具合にできるように進めていただきたいと思います。

○畑下総合教育部長 来年の4月ではなくて9月ぐらいをめどにというお話なので、そこだけはちょっと訂正させてください。

○守井委員 来年9月なんて、実施設計したとしても、来年の予算でやるわけですから、実施設計でも正規な工期を取ってないと、1年ぐらいかかる工期になりますよ、1か月、2か月で仕上げるというのは、そりゃ無理といたしますか、激しい発注の仕方になりますよ。建設にいたしましたも、適正な工期というのがありますから、そこをきちっと把握しないと、そんなことにもならないと思います。

それはよう技術屋と相談していただいて、その開園の時期なんか、そういうことにはならないと思いますけど、それをどうこうという話じゃなくて、そのあたりきちんと地元の説明していただいて、スケジュールのあたりもよく検討されてから考えていただきたいということです。

○藪内委員 今、お二人の委員から言われたとおりで、私もやっぱりまず地元というのを、要するに地元の方が使うわけですから、地元の方がどうなのかというのが、やはり一番だと思いますということだけお伝えしておきます。

でないと、さっき言われたとおりで、造ったはええけども、何でこんなところに造ったんじゃろうなという声ばかりでは、子供たちにとっても気の毒です。そこだけないようにというのを、それを私もお願いをしておきたいと思います。

○中西委員長 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長から、1つだけお尋ねをしておきたいと思います。

この件に関して、地元から何か教育委員会に要望、あるいは懇談とか、お見えになられて話をされているのでしょうか。

○畑下総合教育部長 小学校のPTAの方とかと、お話をということで来られていました。今は審議していただく状態なので、そちらからのお話をということだけで伺っております。

あと、まだ会ってはいないんですが、地区長さんが来られるというお話はあります。特に、話をしているわけではないです。

○中西委員長 つまり小学校のPTAの皆さんがおいでになられたと、話を伺ったと、ぜひとも来てほしいというお話だったんですか。

○畑下総合教育部長 向こうのほうから来られて、ちょっとお話を、今、こういうお気持ちですというお話を伺いました。

○中西委員長 また、今度、他の地元の人も来られる予定だと。

○畑下総合教育部長 地区という、はい。

○立川委員 今回こういうお話をされたのは、地元の方の同意というか、応援は得られてないままこういう状況ですということでもいいわけですかね。確認ですけど。

○畑下総合教育部長 これまで答弁したとおり、説明等何も行っていませんので、同意等も何も取ってはおりません。

○中西委員長 それでは、次の所管事務調査に移ります。

部活動の地域移行についてというのが議題に上げてありますが、基本的には教育委員会の所管する分野ではないということが述べられていますけども、しかしそうはいつでも学校教育の在り方がどうなるのかというのは大きな課題でもありますので、少し取り上げられた青山委員から一言、話をしていただければと思います。

○青山副委員長 先ほど委員長が言われましたように、所管が違うということなんですが、これは学校との関わりが非常に深い問題ですので、学校としてどう捉えられているかということについてお聞きしたいと思います。

学校の中でも中学校は部活動をされているわけですが、そういった学校での部活動とそれから既に何校か地域移行されとるようなんですけど、その辺での関わりについては、どうなっているか、現状をお知らせください。

○谷口小中一貫教育課長 学校と地域移行課とが中心になって話のほう、随時行われているとい

うところでございます。その中で、幾つか実際に休日移行できた種目等もございます。そういったあたりで、人材の掘り起こしも含めて、随時、今現在も行っておる状況でございます。

○青山副委員長 もう既に何校か何種目かやられているというのは、以前もお聞きしたんですけど。学校を離れて地域の団体で持っていただくということで、例えば、学校での教育活動、生徒指導であるとか、あるいは行事関係、そういったようなものと調整はどのようにされているのでしょうか。

○谷口小中一貫教育課長 基本的には、学校側の顧問であったり、管理職であったりと、そういう休日移行の指導者の方との間で、必要に応じて話し合いをしながら進めておるといったところになります。

○青山副委員長 その辺は、学校側とそれから実際に指導される指導者との連絡協議会のようなものを、定期的あるいは不定期かもしれませんが、持たれているという中で調整されているんですか。

○谷口小中一貫教育課長 必要に応じて顔を合わすような機会であったり連絡取り合う機会というのがございますので、そういった機会も捉えながら計画的な取組にしていくような流れになっていると思っております。

○青山副委員長 以前もこういう問題の前に、クラブで活動する生徒とそれから学校の教員との間で指導の違いでトラブルもよくあって、私も外部のクラブ指導しているときに、学校とよく連携するようにということで、学校に出向いて行って指導している生徒の様子をお聞きしたり、学校からの要望があれば、クラブの中で検討したりとかというふうなことをやったんですけど、全体的に、この地域移行課とそれから教育委員会の中で、そういった様々な問題について、こうやろうというものは、そういう連携についてはいかがですか。

○谷口小中一貫教育課長 必要に応じて、同じフロアでございますので、話し合いは担当も含め、しております。問題点が起されば、その点で、学校現場としての気持ち、それから地域や御指導いただく方のお気持ちなんかも聞きながら進めて、折り合いをつけることを考えていけたらと思っております。

○青山副委員長 ぜひその辺の、学校とそれから直接活動を指導していただいている地域の指導者、あるいは団体との連携、それから庁舎内と言うと、文化スポーツ部、地域移行課とそれから教育委員会との連携、しっかり密にさせていただきたいと思います。

○土器委員 将来こういう形に持っていったらええというような形の絵はできているんですか。

○谷口小中一貫教育課長 具体については、地域移行課になろうかと思えます。

○中西委員長 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

では、次に移らせていただきます。

P T Aについてです。これは新聞報道でも出ておりましたし、一般質問でも取り上げられては

いたんですけども、教育委員会としては、所管外というところにはなるわけですけども、そうはいっても深い関わりもありますんで、委員の皆さんから御意見、御質問、何かありましたら。

○青山副委員長 これについても、各校様々だと思うんですけど、既にPTAとしての活動を中止されて、PTA会長もつくっていないというところもあるやに聞いております。各校の現状というものはいかがなものでしょうか。

○谷口小中一貫教育課長 市内の小・中学校においては、特に変更なく、これまでの活動を行っておると聞いております。

○中西委員長 ほかによろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

なければ、皆さんのほうから、今回は定例会ですので、何かテーマを出していただければ、それにお答えできると。

○草加委員 令和6年9月の定例会で、森本議員に対しての一般質問の答弁資料の令和6年度プール使用状況一覧の内容なんですけれども、備前中学校は屋外プールの設置状況なしで、プール使用日数が斜線で、校外のプール使用も斜線になっておりまして、水泳授業の実施にはマルがついているんですけども、このことについて教えていただきたいと思うんですけども。

○谷口小中一貫教育課長 下のほうに参考で注意書きのような形で添えさせていただきとりますが、水泳指導につきましては、適切な水泳場の確保が困難な場合はこれを取り扱わないことができる。しかし、水泳事故防止に関する心得については必ず取り上げること。また、中学校については、保健分野の応急手当との関連を図ることとされとります。それに基づいて、実技的なものが実際プールの中でできなくとも、例えば、動画を見ながら泳ぎ方のコツを押さえるであるとか、それから先ほども申し上げましたような、水泳事故の防止に係るようなあたりの内容について履修をしていくということになります。

○草加委員 僕の中では、備前中学校はやっぱ市内の中で一番大きな中学校だと思っているんです。その一番大きな中学校がプールに入るとい実技、実際の体験なく、プールの授業で、この危険な水泳事故防止に関する行為についてだけ取り上げることで、授業を終わらせることでもいいのかなと思うんですけども、その点についていかがでしょうか。

○谷口小中一貫教育課長 学習指導要領上では、先ほど述べましたような形になります。ですので、形に合わせた水泳指導というのがなされているというような認識でございます。

○草加委員 今後もそのような形で続けていかれる予定なんでしょうか。それとも、何かこう近くの久々井のプールに連れていかれるというような検討をされていらっしゃるのでしょうか。

○谷口小中一貫教育課長 常にこういう教育活動というものは見直しを図るべきものと思っておりますので、来年度以降については、備前中学校もプールでの実技を伴ったものもあるとは思っております。

○守井委員 今年度のIB教育の進捗状況はどのような状況になっているか教えてください。

○**守屋国際教育課長** この夏、平日13日間のインスクールワークショップを実施いたしました。併せて、小・中それぞれのほぼ常勤の先生方全員ワークショップに参加していただきました。併せて前回も御報告させていただいたと思うんですが、新たに異動でおいでになられた校長先生、またコーディネーターの先生方のワークショップ、それから中学校の教科のワークショップ、そういったワークショップに、この夏参加をしていただきました。今、候補校ですので、これから認定校に向けて、小学校、中学校それぞれ日本の文科省が進める教育課程とIBのカリキュラムをすり合わせをしながら、新たにカリキュラムを開発していくという作業にこれから入っていくようになります。

○**守井委員** 順調に進んでおるということで理解しとってよろしいでしょうか。

○**守屋国際教育課長** 15校全校が順調に進んでいるかと問われれば、まだまだ厳しい学校もございますし、積極的にどんどん進めている学校もございます。

○**青山副委員長** 中学校のグラウンド整備について、もう終わっていると思うんですけど、状況について教えてください。

○**春森教育総務課長** 備前中と吉永中のグラウンドの整備についてですが、吉永中のグラウンド整備は8月末までに完了しておりましたが、備前中は吉永中より広い面積をする関係上、最後のところで台風がやってまいりまして、水が入った後は、すぐに今度はもうそういう水はけをよくする工事のところに、雨の部分に車が入ることはできませんでしたので、学校側にも部活動等で若干御迷惑をおかけしながらですが、やっと終わったところで、一応まだ検査報告等は聞いてないんですが、本日やっと最終的な両方の検査を終えたところで、今その検査状況を踏まえた上で、もう完了になるという見込みでなっています。一応工事としては、業者さん側の立場としての工事は終わったという状況でございます。

○**青山副委員長** 私も途中途中で見せていただいたり、終わったような状況のときに見せていただきました。本当にきれいにグラウンドを傾斜をつけてやられて、最後はにがり、これも満遍なくまかれていい状態になったかなと思います。

ほかのまだされていない日生中、三石中については、今後どうされるおつもりか。

○**春森教育総務課長** 今現在、5中学校のうち、まず伊里が終わって、今回2校しましたので、伊里中のやり方と今回の2校中では違うやり方を実際工事としてしております。今回のほうがやり方としては軽微になっており、伊里中はなかにパイプを通したような形になっていますので、そういった部分の、今後、特にこの新しい2中のやり方の今後の状況も見つつ、やはり皆さんがずっと言われておるような三石中と日生中についても、予算要求等をその状況に応じて検討していきたいなと思っております。

この工事の分のスタート時点も、当時も運動会自体も、三石と日生は当時運動会自体が遅れた状況も踏まえた話になりますが、今、新しい手法が2つありますので、こういったものをやったほうがいいか確認しつつ、予算要求等を検討してまいります。

○**青山副委員長** 私も以前質問して、私も3校行ったわけですけど、日生中が一番水はけが悪いと経験しております。日生中は、壁の外側に溝があるというふうなことで、水はけというのは、上部排水で、傾斜があって、どこかへ流れ込む、そういうところがあると、さあっと引いていくんですけど、日生中はそういう場所がないかと、少ないなと感じておりますので、またそれぞれ見ていただいて、備前中、吉永中とまた違うような、工法というんですか、そういうのも考えていただけたらと思います。

○**春森教育総務課長** おっしゃっているとおり、それぞれの状況に応じて対応してまいりたいと思いますので、いろいろ検討していきながら予算要求してまいりたいと思います。

○**青山副委員長** 最近またインフルエンザもはやってきているようですし、コロナもまだまだということで、学校現場においてコロナ、インフルエンザなんかの感染症の状況というのを教えていただけたらと思います。

○**谷口小中一貫教育課長** 2学期になって、まだ学級閉鎖をしたというようなところは、報告は上がってきておりません。

○**立川委員** 最近のちまたのうわさから、共同調理場の食洗機が具合悪いというところで、いろんなところでいろんなお話を聞きました。時系列で御報告いただけたらと思います。

○**春森教育総務課長** 9月になりましてから、伊里共同調理場の食洗機が壊れてしまいました。普通は、食器を全てその食洗機で洗っていたものになります。現状、食洗機が壊れたため、マンパワーで、食器が3つあったうちの1つは頑張って共同調理場の職員が手洗いをしている現状です。残り2つについては、もう対応が難しいので、修繕ができる期間までは、紙の容器を買って対応しているのが現状でございます。

修繕なんですけど、よくあるパターンとして、そういったときのために2台あればいいなんて話になったりするんですが、食洗機はかなり高額なもので、2台設置するのはなかなか難しい状況になつとります。その上で、修繕も、かなり実は老朽化していたもので、部品のパーツを探すこと自体でも苦労して、見積り自体取れるまでがかなり時間を要しまして、先日やっと見積りを徴することができて、大体めども立った状況を踏まえて学校にも、初めは本来は修繕の見込み日を入れてどれぐらいにはできるという通知をしたかったんですが、結果としては、もうかなり取り寄せする自体の期限も含めて、修繕、回復するまでの期間を要するということになりましたので、学校の父兄の皆さんにお送りする文書も、期間を外したものをお送りしているのが現状です。今、やっとその見積りを取って、それに合わせてこちらで設計仕様をやっと書いたところで、これから発注に、向こうのほうも取り寄せするのに時間かかりますので、そういったものも踏まえて、進めてまいりたいと思います。恐らくこれから4週間以上はかかるのではないかと思います。

○**立川委員** 大変御苦労されておるみたいですね。現場は、栄養士からそこら辺の人が全部を手伝ってやっていると、教育委員会はお手伝いに行かれたんでしょうか。

○春森教育総務課長 誰も行つとりませんが、一応そういった部分の対応を人の負担を解消するために、その部分について、シルバー人材センターに人員派遣をしていただいて、昼から洗うための人を何人か、今、手配を準備して、既に何名か入っとなんですが、その状況に応じて今後も増やしてまいりたいと思っていますところでございます。

○立川委員 我々知らないんですけど、大変御苦労いただいて、機械につきましても、もう耐用年数も過ぎているというお話も聞いて、今、課長からお聞きして、やっぱりもうそうなんだなと。1台何億円もする機械じゃないですよ。さらで買ったらどのぐらいか予算見積りはされましたか。

○春森教育総務課長 いろいろあるんですが、1億円にはいかないんですが、何千万円という予定になると思います。それぞれ機械の種類とかいろいろ変わるので、特定の何千万円で、1,000万円とかではないと思うていただけたら。

修繕も、それを直すためだけでも200万円、300万円とか、今は200万円を見込んでいますが、そういった形がかかる想定になつてきますので、それなりに高額になります。

○立川委員 実は私も病院の調理場を、全部食洗もやり替えた経緯があるので、大体値段頭に入っとなんですけど、そう高いもんじゃないですよ。おっしゃるように、冗談みたいに1億円と言いましたが、3,000万円ぐらいは平均ですね。あれは値段があつてないもので、役所が買うと5,000万円かも分かりませんが、民間が買うと3,000万円ぐらいで買えるような代物が一番ポピュラー、スタンダードでということなんで、それも要求されたらどうですか。一度壊れて二、三百万円、次壊れたら、また費用がかかる。結局4週間ぐらいということになると、事故が起こってからざっと2か月かかるということではないんですか、稼働するまで。

○春森教育総務課長 想定ではそうなります。当然、今おっしゃっていた形で、買ったほうが早いのではないかという議論もあつたんですが、買おうとしたときは、今度は入札になるので、今の修繕期間よりは入ってくるまでの期間がかかる。ただし、入った後は確かにおっしゃっているとおり、新品が入るので安定稼働するんで、現状で現場の負担を軽減しようとする、先にまず一旦直すというストーリーになっています。ただし、本当に新品を買ったほうがいいんじゃないかという話があつたのは事実でございます。

○立川委員 専門的なお話になるかも分かりませんが、一番壊れやすいのは、御存じのとおり管なんですよ。水が出る、お湯が出る、噴射ですね。だから、水路のかげんが一番あれなんで、結局パーツ替えても、そこがまたいきますんで、私は専門家の意見聞いてもらうほうがいいんですけど、できたら交換のほうがあと安定でいくと思います。

それと1点、プラスチック容器と、紙容器とおっしゃっていましたが、現場はプラ容器使っていますね。ポリプロピレンとか、はい。紙じゃないですよ。

変な話ですけど、子供たちももういつまでこんなことするんというようなことで、大分モチベーションが下がつてみたい。だから、備前焼を持っていけとは言いませんけど、何か工夫

をしてあげたらなと思いますが、現状、シルバーさんに皿洗いを頼んで、プラ容器でもう一か月辛抱なさいというところになるわけですね。

○春森教育総務課長 大変申し訳ございませんが、一応その予定です。

もうさらにそれよりかかるという場合になれば、幾つかの学校は作る場所を変えることなども考えていかなければならないなど。ほかの調理場に当然作れる空き枠があるので、そこに対して車が手配できるのが、今の移動車で回るのが、実際作ってから何時間以内に学校に運ぶというのが一般的なその決まりなので、そういったものも踏まえて、ローテーションできるんなら、それを最悪というか、期間がもっと延びるんならしなければならぬというのも当然視野に入れながらです。今、現状は、うまくちゃんと言って、1か月、3週間、4週間でできるのであれば、取りあえずここはしのごうかなという形になっています。ほかの手段も考えてないわけではございません。

○立川委員 そんなきに、緊急手段が民間ではネットワークされておりまして、例えば、A病院が使えなかったらB病院ですると、民間の力を借りる。例えば、備前市内でも大きな事業所も結構あると思いますので、そういう食洗機使っているところ、時間ずらせば洗うぐらいは洗わせてくれるところもあろうかと思いますので、緊急避難として、そういうこともぜひお考えいただけたら、そのネットワークの中にでも入れてもらえたらどうですか。普通の給食センターでも、例えば、東岡山給食なんかでも、結構時間がずれたら食洗させてくれるかもしれませんし。そういった業者もありますので、民間の力も借るというのもひとつお考えいただいて、一日でも早く子供たちに自然な姿で、今の食器でも飽きとんのに、いつまでもされないように、その辺も御検討いただけたらと思うんですが。

○畑下総合教育部長 今後の検討材料とさせていただきます。

○中西委員長 委員長から1つだけ伺いしておきたいんですけど、シルバーから人が入っているということですけども、予算は大丈夫なんですか。

○春森教育総務課長 当然ながら予算の中で流用した形になるとは思っておりますが、緊急時であるので、そういった形で予算の中で、共同調理場費の中で予算として執行しております。

○中西委員長 あらかじめそういうことをするときには、やはり委員会にも一言これからもお話をさせていただければと思います。

ほかにございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、本日の所管事務調査を終了いたします。

以上で厚生文教委員会を閉会します。

皆さん、御苦労さまでした。

午後1時52分 散会